

『罰』とはルールに反して生ずるもの

經典に示される『罰』の有り様

經典には、法華經（末法の法華經＝日蓮正宗）の信仰をしない人の罰の具体的な有り様を、次のように説いています。

■法華經譬喻品第三



事故・脳梗塞などの後遺症

●眼・耳・鼻・口等の諸器官が正常に働かず、身体に障害が現れる。／●語ることを周囲の人々が信じてくれない。／●口より悪臭を漂わせ、金縛りにあったり幽霊・物怪の類を見る。／●貧苦のどん底となり他人に酷使される立場となる。／●身体に多くの病気をもち痩せ細ってしまう。／●頼るべき人がなく、人に親しく接していても相手はそれほど心に置いてくれない。／●所得収入があっても次々に支出して生活苦に陥る。／●医者となって病人を治療すれば、医療ミスをしてかえって他の病気を引き起こしたり死亡させてしまう。／●病気がなったとき、よく治療できる医者がなく、たとえ特効薬を服用してもますます病状が悪化したり他の病気を併発してしまう。／●周囲の人々に裏切られたり、他人に金品や財産を騙し取られたり盗み取られる。→以上のような不幸が我が身に次々と起こってくる。――●常に悩み苦しみにさいなまれる。／●足ることを知らぬ貪欲な境涯となる。／●動物のように本能だけで行動する人格・境涯となる。／●貧苦に陥り、痛々しいまでに貧相な姿となる。／●身体に、水泡や瘡蓋（かさぶた）、白斑や出来物などの病が起こり次第に拡がっていく。／●常に身体から悪臭を発散させる体質となったり、垢や汚れを落とすこともできない生活状態となる。／●自分勝手な妄想や曲がった見方・考え方に捉われ、そのために腹立たしさや苦しみを自ら増していく。／●淫欲が盛



んとなり、動物のごとき行かないとなる。

■法華經普賢品第二十八

●業病（医者に治せない病い）等にかかる。／●歯肉の病気等により歯がすき欠けていく。／●口が曲がり、鼻筋がなくなる等の悪相が現われる。／●手足の骨の病により、通常の生活や歩行が困難となる。●左右の眼球の視点が狂う。／●身体から悪臭を放ち、膿の混じった血が出るような皮膚病となる。／●腹水がたまり、命が短くなる。／●その他、諸々の悪重病が起こってくる。



■金光明景勝王經四天王護国品

●心が荒んで、常に煩惱にさいなまれる。／●人を殺したり、諍いばかりの日々となったりする。／●他人を罵って無実の罪を被せたり、被せられたりする。

■大集經月蔵經法滅尽品

●人としての良識に外れた行ないが甚だしい。／●貪欲で、怒りっぽく、筋道のわか

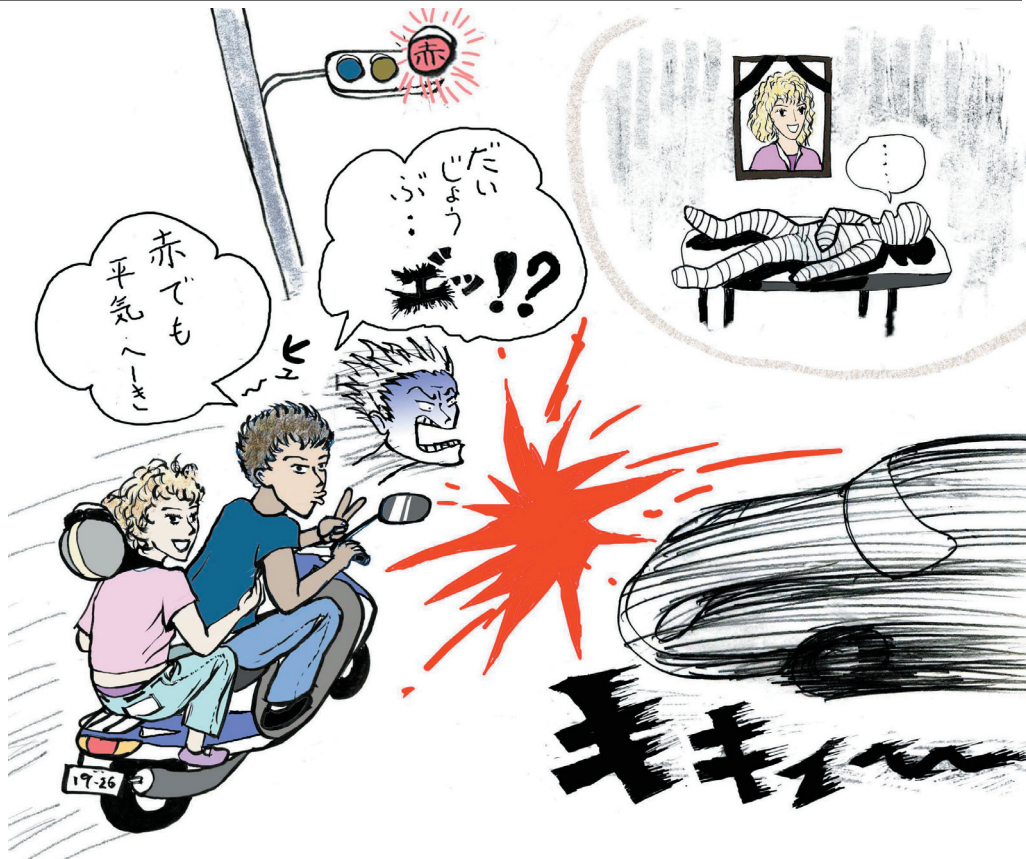
らぬ人格となり、親を親とも思わない、畜生のような恩知らずになってしまう。／●短命。虚弱体質。／●毎日に覇気も喜びもなく、薄幸な日々を送って苦悩する。

■大集經虚空目分讓法品

●一に経済苦、二に諍い、三に病苦。その他、諸々の災厄が次々と身に起こり、親戚にも背かれる。

これら、人生の諸々の不幸なる現象はすべて、法華經（＝日蓮正宗）の信仰をしないことによって起きる罰だということです。この厳然たる事実を知らず、また知っても重ねて背き続けていけば、なお深く重い不幸の原因を積み重ねることになってしまいます。そして、その究極の「罰」は、

- 「頭破れて七分になる（頭破七分）」（法華經陀羅尼品第二十六）とありまして、
- 実際に頭部や脳を損傷して非業の死を遂げる、
- 精神分裂やノイローゼ等の異常をきたす等々、自らの人生を破壊させてしまうほど重いのです。



法則⇒無視⇒損失・苦悩←罰

■破り捨てる前に

私たちの幸・不幸には宗教が深く関係していて、本当の幸福になるには正しい宗教が必要です。それは、歴史的な事実、教義の道理、信仰の実践結果、などから検証して日蓮正宗しかありません。（別紙参照）そしてこの日蓮正宗の信仰をしないと必ず不幸な人生を送らなくてはならなくなるのです。また現在皆さんが感じている何かしらの不幸は、結局は日蓮正宗の信仰を知らなかったことから生じているといえるのです。

こう言えどなにも猛反発されるでしょう。が、どうしてなのか説明しますので、怒ってこのパンフレットを投げ捨てる前に、とりあえず一度だけでも読んでみて下さいませんか。

■交通事故はなぜ？

この「正しい仏法に背くと不幸になる」という原理を『交通法規』というもので説明してみましょう。

道路を通行するためのルール、信号・

標識・規則等を無視したならば、必ず「事故」などの「生活上にマイナスな現象」が起きてきますよね。それは、

『罰』は「あたらない」

たとえば「自分は山奥から出て来てルールを知らなかった」といっても通用しません。

さらに『交通法規』にあえて逆らって行動したら、知らずにルールに従わなかった人よりも、事故を引き起こす確率が格段に高くなることは当然ですね。

■法に逆う ↓マイナス現象

この他にも私達の生活はさまざまな法則（国の法律、世間の常識など）により成り立っているのです。それらのルールに背いたときには、それなりの『生活上にマイナスな現象』が生じます。

■自ら招く『罰』

仏法で説く『罰』もこれと同じです。つまり『罰』とは、神や仏などによって「あてられる」ものではなく、法（ルール）に反した自分自身の生き方から生ずる「マイナス現象」なのです。しかも仏が覚知した「仏法」とは、真の幸福な人生を送るためになくてはならない根本の法ですから、これに従わないなら、生活全般のさまざまな面で「不幸な現象」が生じてくるのです。

■たくさんさんの苦しみ

事実、あなた自身も、あなたのお友達も、また世の中の人々も、たとうわがが幸福そうに見える人でも、一歩内側まで立ち入ってみれば、経済的な苦しみとか、仕事の問題、病苦、家庭不和、対人関係の悩み、人格的欠陥、性格的な悩み等々、誰でもさまざまな問題を抱え、悩み苦しんでいるのではないですか？

前に挙げた、交通法規や国の法律などは、特定の時代や環境のごく一部分に適用される狭く狭いルールですが、それでも無視すれば大きな損失や苦しみを招きます。ましてやこの宇宙全体の根本法たる仏法に背く罰は、実に重く厳しいことでしょう。

また、「この仏法のことを知らなかった」という人も、先ほどの交通法規の例と同様に、『マイナス現象』を免れることはできません。

臨終の相に全て顕れる

壮絶な死後

経文には、「正しい仏法に背く者は、命が終わった後、絶え間なく大苦惱を感じ続けていく境遇に無間地獄に陥り、永遠に近い長きにわたって大苦惱を繰り返して受け続ける」（法華経譬喩品第三）と説かれています。

を構成する肉体は、様々な元素に分解されて、この宇宙空間に還元され、溶け込むのであり、完全な「無」にはなりえないのです。生物の一生が覚醒と睡眠の連続であるように、生と死が連続することが生命の真実の姿であるということを仏教者は悟ったのです。

この地獄の苦しみとは、ちょうど私達が眠っている時に悪夢を見る場合と同じように、ビルの屋上から突き落とされたり、人に刺し殺されたり、自分の子供が目の前で事故にあつて死んでしまったり・・・と実際は布団の中に身体があるにもかかわらず、現実には苦しみを感ずることと例えられましょう。

死後の「悪夢」では、自らが正しい仏法に背いて積み重ねてきた罪業が消え果るまで、煮えたぎった熔岩の中で我が身が焼き尽くされるような苦しみをただただ感じ続けなければなりません。

さて、經典に説かれている「生命は死後にまで継続し、もし正しい仏法を信じなければ死後は無間地獄に墮ちる」ということには決定的な証拠があります。それは「臨終の相」なのです。仏典には、「臨終は、生と死の境、死後の第一歩であるから、臨終の姿はその人の死後の状態を如実に顕わしている。正しい仏法を信じなかった者は死後、無間地獄に墮ち、必ずその臨終時に、また遺体に悪相を現する」と説かれており、次のような状態を「地獄に墮ちる相」と

- ① 手で空をつかんで、もがき苦しむ。
- ② 筋道の通った正しい思考を失う。
- ③ 恐怖のあまり、涙を流して泣き叫ぶ。
- ④ 大小便が垂れ流しとなる。
- ⑤ 苦しみのあまり、眼を固く閉じてしまう。
- ⑥ 苦しみのあまり、手で顔面を覆って悶絶する。
- ⑦ 異常な食欲が出て、狂ったように飲み食う。
- ⑧ 身体や口から腐敗臭が漂い出る。
- ⑨ 恐怖のあまり、手足を震わせて、怖れおののく。
- ⑩ 鼻筋が曲がって、凄じい形相となる。
- ⑪ 白眼を剥きだしてしまふ。
- ⑫ 眼が血走って真っ赤に変色する。
- ⑬ 顔面を伏せて、苦しみ、うめく。
- ⑭ 苦しみのあまり、身体を屈めて悶絶する。

●眼、あるいは耳、鼻、口、毛孔などから、血を吹き出す。（法華伝）
●破れた皮膚から膿が流れ出したり、全身に熱い汗をかいて苦しむ。（日蓮大聖人御書）
●狂乱して絶命する。（同）
●死後、遺体の色がどす黒く変色し、皮膚が収縮して骨がはつきり顕われる。（同）
●遺体が固く硬直し、ずっしりと重く感じる。
こうした、仏法で説く墮地獄の相を、現実に見えてみると、まさにそのとおりで、仏法に背く心の強い人ほど、その臨終と遺体の上に悪相を現しています。（※近年では病院で死を迎える人が大半で、遺体の悪相は看護士が可能な限り修復してから遺族に引き渡すケースも多いので墮地獄の相そのものを目にすることも少ないといえます。）
反対に正しい仏法を信仰しぬいた人の臨終の相は、●遺体の形を損せず、●生前よりも美しい色白となり、●眠るがごとき半眼半口で、●身体が生前以上に柔らかく、●死臭すらないのです。これは多くの方が現実に実証して間違いないです。



成仏の相

正しい仏法に従わないかぎり、誰一人の例外なく種々の罰あつて、今生・後生（死後のこと）にわたり不幸を免れることはできません。

一刻も早く正法を

さらに、国中に正しい仏法に従わない人々が充満した場合には、政治も経済も世情も治安も乱れ、人災・天災等が続発して、ついには一国の衰亡という事態を招くこととなります。（※現に正しい仏法である日蓮正宗を破壊せんとする創価学会が支持母体の公明党が政権与党に入ってから、日本国に天災、人災が頻発しています。）
真の幸福と安穩を願うならば、まず、不幸の根本原因たる正しい仏法を信じない従わないという心を捨てて、自ら願って正しい仏法である日蓮正宗を信仰させていただくことが、もっとも肝要です。

証拠は「臨終の相」

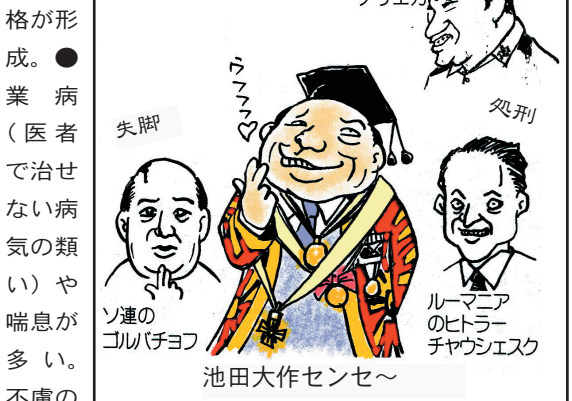
このように説明しますと、「死んでしまえばおしまい」「死ねばみんな無になる」という人も大勢います。しかし、実際には死によって生命

- ① 集まっ
- ② た自分の
- ③ 身内に對
- ④ しても、陰
- ⑤ しく猛々
- ⑥ しい目つ

（日蓮正宗以外の「南無妙法蓮華經」と唱える宗旨。



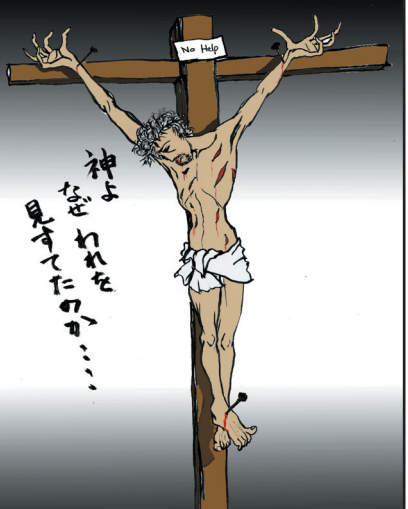
日蓮宗身延派、池上派、創価学会、顕正会、正信会、立正佼成会、靈友会など）
●正当の相伝を無視あるいは歪曲して宗旨を立てている。●そのつど考えることが一変してしまうというような精神の異常。神経症、



●頑迷で道理が分からずひとりよがりで精神病執着の強い歪んだ人格が形成。●業病（医者で治せない病気の類）や喘息が多い。不慮の

災難、一家離散などの、悲惨な現象が現れることが多い。

【キリスト教】二重人格



●偽善的で消極的な二重人格者が多い。●教義的に抑圧されているのでショックな事に出会うと激しくパニック、ヒステリー状態になりやすい。●人種差別的な発想。●戦争には過去も

■「自分は無宗教だから関係ない！」と言う人もあるでしょう。しかし、その人の先祖を迎れば必ず菩提寺があり、その宗派の悪影響は、肉体的には遺伝という形で、精神的には教育という形で、また今でも法事などで何らかの縁によって、意識しなくても私達の生命に刻み付けられていて、その歪みは現実の生活上に現れています。

〒 381-0042 長野市稲田 1-16-2
樋田 昌志 090-3343-9338
http://toyoda.tv toyoda@avis.ne.jp

墮地獄の相



邪宗教の害毒

不幸を幸福へと転換する事ができる本当に正しい力ある宗教は日蓮正宗ですが、逆にそれ以外の全ての宗教は、完全でない、何らかの欠陥を持った邪宗教であり、それを真剣に信仰すればもちろんのこと、何らかの縁を持っているだけで人生や人格に歪みが生じ、不幸にならざるを得ません。

あまたの不完全な宗教の中でも代表的な宗旨の概ねの傾向性を挙げてみましょう。

【浄土宗】念仏無間地獄



- 現実を逃避する。
- 諦めの強い、退廃的で優柔不断な性格や生き方。●人まかせ、先頼み、先送り。
- 常に悩み苦悩の連続●外面はいいが家庭内で横暴 酒乱が多い ●ひどい場合は鬱病。自殺。（善光寺大本願も）

【浄土真宗】

- 基本的には浄土宗と同様。●何か問題

にぶつかると破壊的な発想や行動に走りがち。●自暴自棄的なるが故に性格が攻撃的でひねくれる場合が多く、他人の粗を捜して批判することが得意になる傾向が強い。



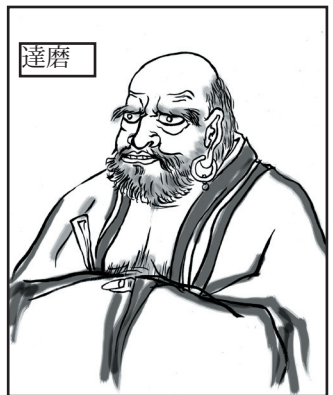
【真言宗】真言亡国

- 個人においては嘘と虚飾、誇張の多い人間となり、組織社会では長に従わず、自分が長に立とうとするが故に混乱を招く。
- 一家においては柱

であるべき主人・長男が立たない（主人・長男が早死にしたり、病弱だったり、精神障害だったりする）。

●女系家族になっている例が多い。●女性の気性が過剰に強くなり、主人を支えない、小馬鹿にする等、家庭内の”下剋上”が子供の教育上大きな歪みが生じている。（善光寺大勧進、真如苑など）

【禅宗】禅天魔



- 自分の力だけで生きていくという強さだけは身についてくように見える。が
- 傲慢で思い上がり強い。●口が達者で理屈屋だが独りよがり ●ワガママ、頑固、人の意見を聞かない●自分が他の人より勝っているよ

うな、全てを悟っているような、分を弁えぬ心が強い人が多い。●が故に、他の人達と心から通じ合えないで自分自身が孤立し孤独。

【日蓮宗系】頭破作七分